

⑯ 公開特許公報 (A)

平3-100328

⑮ Int. Cl. 5

F 02 B 53/00
F 01 C 1/356

識別記号

序内整理番号

N

7114-3G
7515-3G

⑯ 公開 平成3年(1991)4月25日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全7頁)

⑭ 発明の名称 環状回転式シリンダーエンジン

⑮ 特願 平1-235465

⑮ 出願 平1(1989)9月11日

⑯ 発明者 卷田 哲郎 神奈川県横須賀市阿部倉町1362 メゾンバンブ201号

⑯ 出願人 卷田 哲郎 神奈川県横須賀市阿部倉町1362 メゾンバンブ201号

1. 考案の名称

環状回転式シリンダーエンジン

2. 特許請求の範囲

円形回転板の外周に複数のシリンダーを取り付け、そのシリンダーを円筒状の環状トンネルに通し、回転する開閉ブタによりフタをし、シリンダーとフタの間に送風タービンで圧縮ガスを送り込み、ガスをフローラグにより引火、爆発させ、その圧力によりシリンダーを押し、回転板を回すことを特徴とするエンジン。往復運動をする部分が全くないことを特徴とするエンジン。

3. 考案の詳細な説明

イ 考案の目的

従来のピストン式エンジン(レシプロエンジン)に使用されているシリンダーの

往復運動により消費されるエネルギー損失と、その運動より発生する振動をなくす。

ロ 考案の構成

円形の回転板の外周にシリンダーを横向きに複数(1個以上)取り付け、そのシリンダーを環状のトンネルに通し、そのトンネルを横切る形で、回転板と連動し、回転する円形開閉ブタとシリンダーの間に、回転板と連動する送風タービンにより、円形開閉ブタに掘りられていくミゾを通して圧縮ガスを送り込み、十分に圧力が高くなつてから、フローラグにより引火、爆発させ、シリンダーを押しやり、回転板を回転させる。シリンダーが、フタのある場所まで来たときには、フタが開き、素通りする。その後すぐフタが閉じられ、フタにあるミゾから圧縮ガスが送られ

すぐにミゾが閉じ、十分圧力が高くなるまで爆発する。その圧力が十分強い間は、フタが閉じられており、その圧力が弱くなると次のシリダーが手前まで来た時に、フタが開き、シリダーを通過させる。排気管は、フタの手前に付いており、常に開かれており、このハーフターンをくり返すことにより、回転し続ける。

シリダーには、ピストン式エンジンで既に使用されているリンクをもうけ、気密性を保つ。また、そのリンクは、円形回転板の外周の少し手前と、回転ブタのある場所の円筒部分の外周の少し外側にももうける。その他、気密性が要求され、動く場所全てに、リンクをもうける。プラグ引火のタイミングは、回転板に運動する回転式スイッチによつて行なう。送風用タービンの出口部分には、空気(ガス)だめをもうけ噴出するまで、そこに圧縮ガスをためておく。

第3図は円形回転ブタの正面図である。(切欠部が2個の場合)下は、A-Bの断面図。

第4図は環状円形トンネルの断面図である。

第5図は、送風タービンの断面図である。

1. シリダー	12. 空気(ガス)だめ
2. 円形回転板	
3. 円形回転ブタ	
4. 送風用タービン	
5. プラグ	
6. リンク	
7. 切欠部	
8. ガス通し用ミゾ	
9. ハネ	
10. ガス注入口(送風用タービンへ続く)	特許出願人
11. ガス排気口	卷田哲郎

ガソリンを気化させる装置は、従来形エンジンと同様のものを用いる。これを1組とし、複数(1組以上)を横に並べて運動させ、強い駆動力を発生させる。冷却方法は、従来のエンジン同様に空冷・水冷で行なう。円形回転板、円形回転ブタ、送風タービンは、回転式スイッチはたかに運動している。

八 考案の効果

従来のピストン式エンジン(レシプロ・エンジン)よりエネルギー損失が少なくてすむ。(燃費がよい)

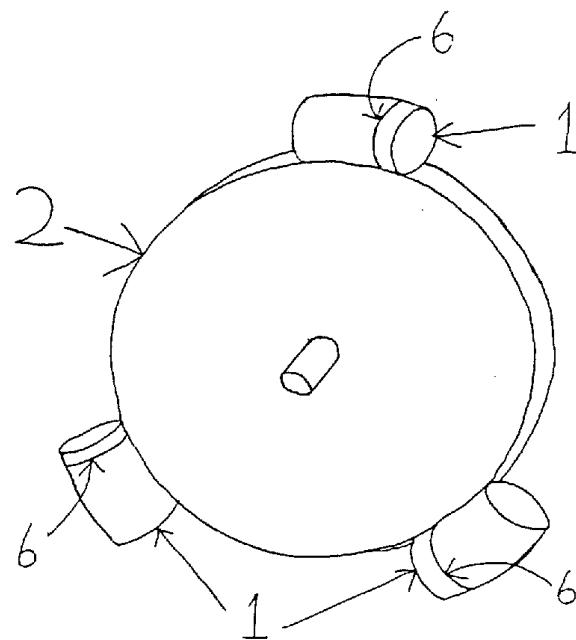
また、振動もない。

4 図面の簡単な説明

第1図は本件1組の断面図である。(シリダーが3個の場合)

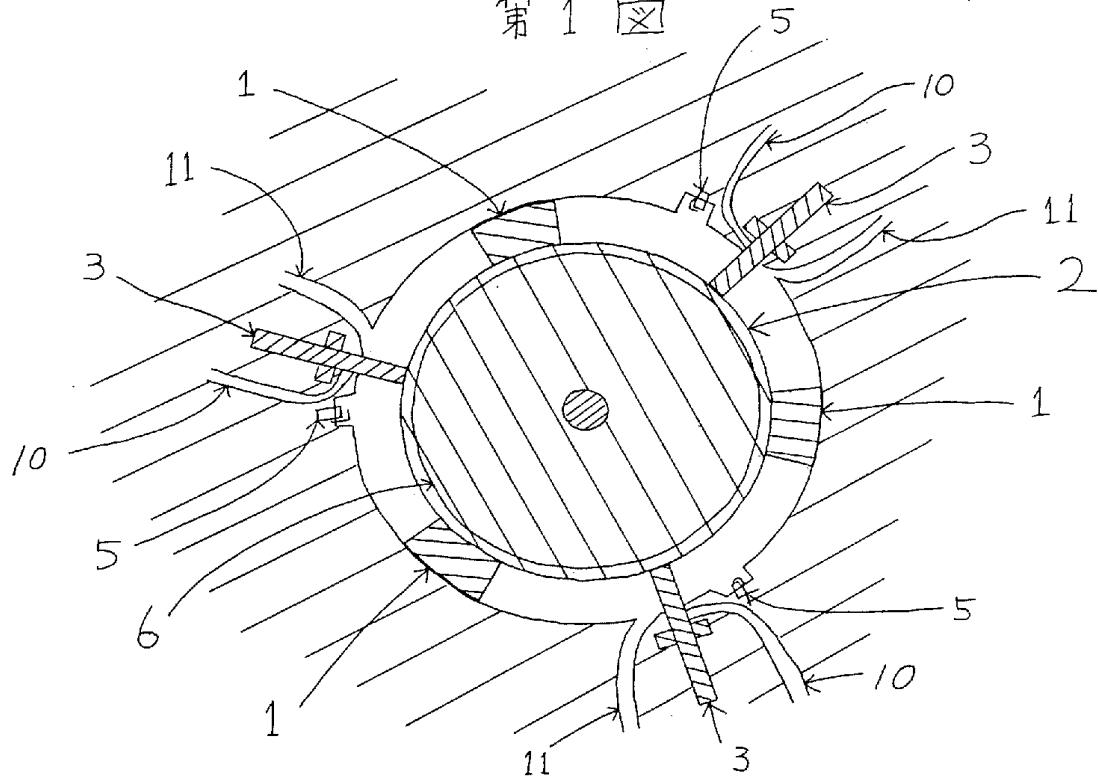
第2図は円形回転板の斜視図である(シリダーが3個の場合)

第2

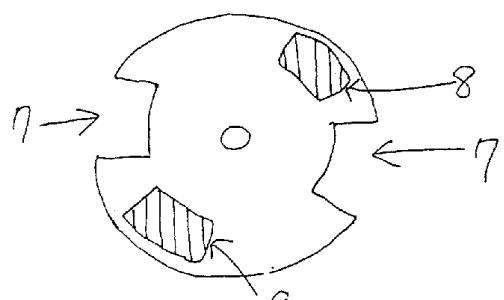


図面の添付(内容に変更なし)

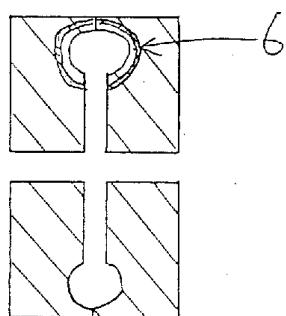
第1図



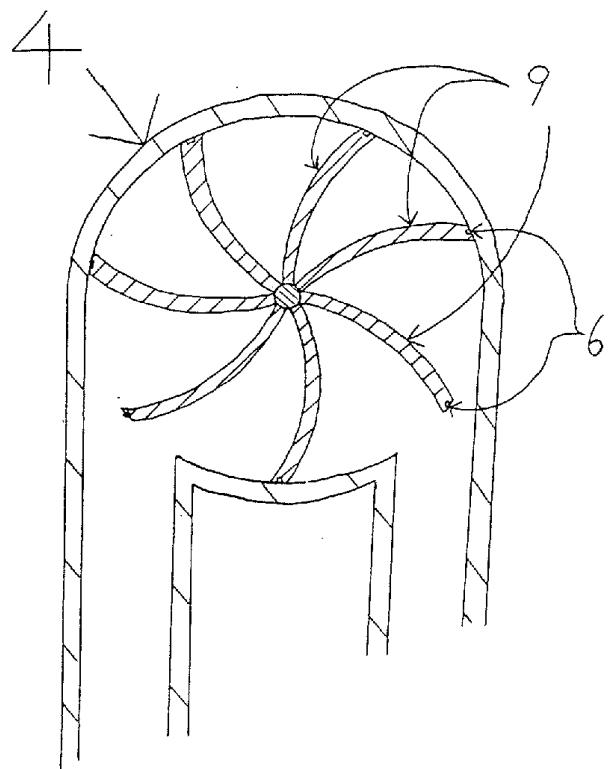
第3図



第4図



第5図



手続補正書(方式)

平成2年1月22日
特許庁長官 殿

1. 事件の表示

平成1年特許願

第235465号

2. 発明の名称

環状回転式 シリンダー・
エンジン

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人
住所 神奈川県横須賀市
阿部倉町 1362
メゾンバンブ 201号氏名 卷 キタ テツロウ
印 (201号)
日 1.231. 発明の名称
環状回転式 シリンダー・
エンジン

2. 特許請求の範囲

円形回転板の外周に複数のシリンダーを取り付け、そのシリンダーを円筒状の環状トンネルに通し、回転する開閉ブタによりフタをし、シリンダーとフタの間に送風タービンで圧縮ガスを送り込み、ガスをフラグにより引火、爆発させ、その圧力によりシリンダーを押し、回転板を回すことを特徴とするエンジン。往復運動をする部分が全くないことを特徴とするエンジン。

5. 補正命令の日付
平成1年12月26日6. 補正の対象
「明細書」「図面」

7. 補正の内容

原願書に最初に添付した明細書の済書・別紙のことあり

明細書の1と3の題名がまちがっており、「考案」を「発明」に直す。

上記以外は内容に変更なし。

3. 発明の詳細な説明

イ. 発明の目的

従来のピストン式エンジン(レシプロ・エンジン)に使用されているシリンダーの往復運動により消費されるエネルギー損失と、その運動より発生する振動をなくす。

ロ. 発明の構成

円形の回転板の外周にシリンダーを横向きに複数(1個以上)取り付け、そのシリンダーを環状のトンネルに通し、そのトンネルを横切る形で、回転板と運動し、回転する円形開閉ブタとシリンダーの間に、回転板と運動する送風タービンにより、円形開閉ブタ

に掘られているミゾを通して圧縮ガスを送り込み、十分に圧力が高くなつてから、フランクにより引火、爆発させ、シリンダーを押しやり、回転板を回転させる。シリンダーが、フタのある場所まで来たときには、フタが開かれて素通りする。その後すぐフタが閉じられ、フタにあるミゾから圧縮ガスが送られすぐにミゾが閉じ、十分圧力が高くなつた状態で爆発する。その圧力が十分強い間は、フタが閉じられている。その圧力が弱くなるか、次のシリンダーが手前まで来た時に、フタが開き、シリンダーを通過させる。排気管は、フタの手前に付けており、常に開かれていている。このパターンをくり返すことにより、回転しつづける。シリンダーには、ピストン式エンジンで既に使用されているリングを

タービンはたがいに連動している。

八、発明の効果

従来のピストン式エンジン(レシプロエンジン)よりエネルギー損失が少なくてすむ。(燃費がよい)
また、振動も少ない。

もうけ、気密性を保つ。また、そのリングは、円形回転板の外周の少し手前と、回転フタのある場所の円筒部分の外周の少し外側にももうけた。その他、気密性が要求され、動く場所全てに、リングをもうける。フランク引火のタイミングは、回転板に連動する回転式スイッチによって行なう。

送風用タービンの出口部には、空気(ガス)だめをもうけ、噴出するまで、そこに圧縮ガスをためておく。

ガソリンを気化させる装置は、従来形エンジンと同様のものを用いる。これを1組とし、複数(1組以上)を横に並べて連動させ、強い駆動力を発生させる。冷却方法は、従来のエンジン同様に空冷・水冷で行なう。円形回転板、円形回転フタ、送風タービン、回転式スイ

4、図面の簡単な説明

第1図は本件1組の断面図である。(シリンダーが3個の場合)

第2図は円形回転板の斜視図である。(シリンダーが3個の場合)

第3図は円形回転フタの正面図である。(切欠部が2個の場合)

第4図は環状円形トンネルの断面図である。

第5図は送風タービンの断面図である。

1. シリンダー
2. 円形回転板
3. 円形回転プラ
4. 送風用タービン
5. プラグ
6. リング
7. 切欠部
8. ガス通し用ミン
9. ハネ
10. ガス注入口 (送風用タービンへ続く)
11. ガス排気口

手続補正書 (自発)

平成2年1月22日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示

平成1年特許願

第235465号

2. 発明の名称

環状回転式シリンダー・エンジン

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所 神奈川県横須賀市

阿部倉町1362

メゾンバンブ 201号

氏名 卷田 哲郎

「図面」

6. 補正の対象

「明細書の図面の簡単な説明の欄」

「図面」

7. 補正の内容

「図面の簡単な説明」

1) 第3図の説明の最後に、「下は、A-Bの断面図である」という文を加える。

2) 番号の説明の最後に「12、空気(ガス)ため」を加える。

(別紙のとおり)

1) 第3図の切欠部(7)の形を変える。

切欠部(7)の断面図を下に書き加える。
(別紙のとおり)

2) 第5図の送風タービン出口部分に空気(ガス)ためをもうける。
(別紙のとおり)

4. 図面の簡単な説明

第1図は本件1組の断面図である。(シリンダーが3個の場合)

第2図は円形回転板の斜視図である。(シリンダーが3個の場合)

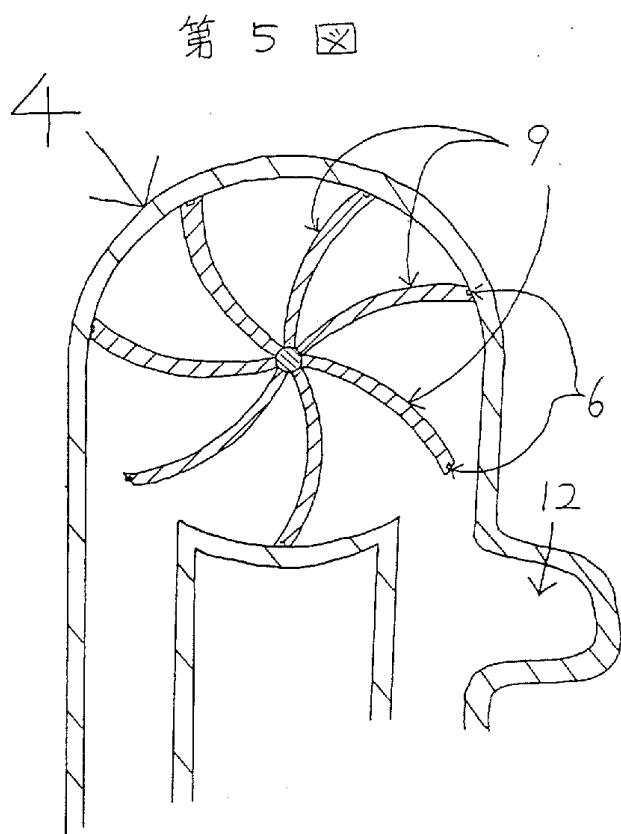
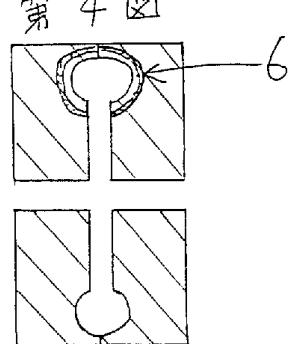
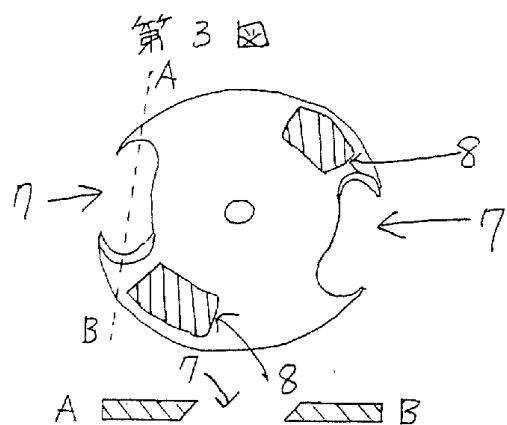
第3図は円形回転フタの正面図である。(切欠部が2個の場合)

下はA-Bの断面図である。

第4図は環状円形トンネルの断面図である。

1. シリンダー
2. 円形回転板
3. 円形回転フタ
4. 送風用タービン
5. フローラグ
6. リング
7. 切欠部
8. ガス通し用ミン
9. ハネ
10. ガス注入口(送風用タービンへ続く)
11. ガス排気口
12. 空気(ガス)ため

第5図は送風タービンの断面図である。



PAT-NO: JP403100328A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 03100328 A
TITLE: ANNULAR ROTARY TYPE CYLINDER ENGINE
PUBN-DATE: April 25, 1991

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
MAKITA, TETSUO	

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
MAKITA TETSUO	N/A

APPL-NO: JP01235465
APPL-DATE: September 11, 1989

INT-CL (IPC): F02B053/00 , F01C001/356

US-CL-CURRENT: 123/200

ABSTRACT:

PURPOSE: To decrease a loss of energy by rotatably fitting a circular rotary plate, to which a plurality of cylinders are mounted, to a cylindrical annular tunnel and supplying compressed gas from a blower turbine between an open- close over and the cylinder to be ignited.

CONSTITUTION: A circular rotary plate 2, in which a plurality (for instance, 3) of cylinders 1 are protrusively provided, is slide-rotatably

arranged in a cylindrical annular tunnel, and a mixture, compressed by an air blower, is supplied between the rotational after of the cylinder 1 and a circular rotary open-close cover 3 with the circular rotary plate 2 rotated by igniting a plug 5 to generate explosion. Here exhaust between the rotational front side of the cylinder and the cover 3 is discharged from a gas exhaust port 11. When the cylinder 1 approaches the cover 3, it is 60° rotated with the cylinder 1 passing from a notched part of the cover, and it is further 60° rotated after passing of the cylinder then closed with each process of charging air, explosion and exhaust repeated to continuously obtain turning force. Thus by reducing a loss of energy, the improvement of fuel consumption can be planned and vibration can be reduced.

COPYRIGHT: (C)1991,JPO&Japio